

開 会 行 事

会長あいさつ

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
会長 陣 内 容 子

本日、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第41回全国大会を、ここ秋田県大仙市で開催しましたところ、全国各地から、また地元からもたくさんの皆様にお集まりいただき、本当にありがとうございます。

また、御講演をいただきました、初代公文書管理担当大臣であり前法務大臣上川陽子様、国立公文書館理事齋藤敦様には、お忙しい中を御臨席賜り、心から御礼申し上げます。

さて私は、今大会が秋田県様、大仙市様に共催していただき、この地で開催されること自体に、全史料協として非常に大きな意味があると思っております。

今大会のテーマは、「新たな史料保存、利用の充実を目指して」です。公文書保存の必要性、重要性については、まだまだ、一般市民の方にまでは広く御理解を得られていないところもあるかと思われまます。

御案内のように、平成23年4月に、公文書管理法が施行されました。この法律は、当時の福田康夫総理大臣と、先ほど御講演をいただきました上川陽子公文書管理担当大臣の御尽力の賜物ですが、法成立のきっかけとなったことの一つに、いわゆる年金問題、年金記録がずさんであるということがありました。根拠記録となる公文書が保存されていなければ、私たちは、自らの権利も守ることができないということになってしまいます。また、重要な行政施策についても、決定までの経緯



陣内会長

や会議資料などが、きちんと保存され、整理されて、閲覧できるようになっていなければ、市民が情報公開を請求しても知ることはできません。公文書管理はまさに、公文書管理法第1条が示すように、健全な民主主義の根幹を支えるものです。

昨今、非常に勢いで市町村合併が進みました。合併前の自治体公文書を散逸させないようにするために、どうしたらいいのか、という課題もあります。ここ、大仙市さんは、平成17年に1市6町1村が合併して誕生したということですが、まさに今、来年度の公文書館設立に向けて準備を進められていると伺っています。御参加の皆様方が、大仙市さんの取り組みに触れて、その熱気を肌で感じ、各自のこれからの施策に生かしていただきたいと思えます。

また、さきおとといの11月9日には嬉しいニュースがありました。お隣の山形県さんで公文書センターがオープンされたとのことです。公文書管理の重要性が認められ、前進していることと受け止めております。

もう一つ、今回の大会テーマの中の「史料」の文字が、資源の資ではなく、歴史の史になっていることに注目していただきたいのです。明治以降は、行政文書として公の保存がなされていますが、それ以前については、民間に所在する、名主や庄屋等旧家の古文書の保存が重要なテーマとなってきます。それらの古文書は、戸籍のこと、税のこと、天変地異のことなど生活のあらゆることを語ってくれる、地域の貴重な歴史資料なのですが、それら、各家で大切に守られてきた古文書が今、代替わりや、古文書が保存されていた土蔵が取り壊されたりして散逸してしまう状況が多くなり、大きな課題となっています。

大仙市にも、東北三大地主のお一人であった池田家の膨大な古文書等が残されて、保存、公開されています。このような古文書からは、当時の村の様子や暮らしだけでなく、その家の家風というか、主（あるじ）のかたの人となりまで、浮かび上がってくるものです。まさに、地域の宝です。

池田家文書が、ここ大仙市で守り継がれる地域の宝であるように、全国各地の古文書を保存し、整理して、閲覧に供することの大切さも、改めて考える大会でありたいと思います。

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会は、昭和51年の発足以来、「記録史料の保存利用活動の振興に寄与する」ために、大会や研修会、調査研究、その報告書の発刊など様々な活動をしてまいりました。

会員の方々には、改めてそのことを自覚し新たな活動に向けての力となるような大会になりますよう、また、一般の方々には、公文書管理の重要性を知っていただき、御支援をいただけるような大会になりますよう祈念し、私の挨拶とさせていただきます。